

YMCANews



YMCA
International
Charity Run
2022

障がいがある子どもたちのための 第16回京都YMCA インターナショナル・チャリティーラン2022

2022年9月19日[月祝] **開催場所が変わります!**

@嵐山東公園 (阪急嵐山駅または松尾駅下車)

主催 公益財団法人京都YMCA
共催 公益財団法人日本YMCA同盟 ワイズメンズクラブ国際協会西日本区京都部

ナショナルスポンサー



プライズスポンサー



サポーターズスポンサー



お問い合わせ先 京都YMCAインターナショナル・チャリティーラン事務局
075-231-4388 c-run@kyotoymca.org

ご協力の方法



ランナーやボランティア
として参加する



協賛する



商品などの物品を支援する

温かいご支援をお願いいたします。
詳しくは特設ページをご覧ください。



あなたが走ると ハッピーになる子どもたちが増えます。

YMCAが全国で展開する「子どもたちのための特別支援プログラム」は、チャリティーランにお寄せいただいた寄付金や参加費などで運営されています。

このプログラムは、発達障がい、知的障がい、肢体障がいによって日常生活に困難が多い子どもたちが、自信を持って心豊かな生活を送れるようになることを目的に運営されています。特に発達障がいは、聞く、話す、読む、書くなどの領域や、社会性、運動面における困難さを持っていることで、学校で孤立してしまったり、本人やそのご家族が人知れず苦しんでいることも多いです。

障がいのある子どもたちへの社会的な関心を高める機会として、より多くの方々にチャリティーランにご参加・協賛いただくことで、障がいのある子どもたちのためのプログラムが増え、多くの子どもたちが参加できるようになります。ランナーやボランティアとしての参加、経済的なご支援など、あなたの思いやりを、どうぞかたちにしてください。

こんな活動をしています

障がいのある子供たちの創作広場パレット ぼくもわたしもピカソになろう!

移動支援サービスを使えるようになったけれど、行く所がない...学齢期障がい児の親御さんからの声を受け、子どもたちが一緒に創作を楽しむ余暇活動の場として、障がいのある子どもたちの創作広場パレットを始めました。2006年10月のことです。

季節に見合ったテーマを設定し、2時間で完成させる創作プログラムを提供。興味を引き出し集中力や持続力を高めるなど、完成に向けた支援で、子どもたちの自由で豊かな自己表現を応援しています。

活動日時 毎第3土曜 午後1時~3時
活動場所 日本福音ルーテル修学院教会
ご興味のある方は、京都YMCA (075-231-4388) まで
お問い合わせください。

活動の様子 (6月) ▶



今日は風船のおしりに絵の具を付けて、模様を作りま〜す。」
「絵の具の付いた風船を紙に押し付ける強さで模様の大きさが変わるの、いろいろ挑戦してみましょか?」
(実際にやってみる) 「ウワ〜ッ! クラゲみたいやねえ...その透明感がすっごくいいわ! 足、描いてみる?」
「アラー! きれいな色...夏のお花畑やねえ...」
「みんないろいろ工夫してスゴイやん!」



待望の留学生入学 学生インタビュー

新型コロナウイルス感染拡大で、外国人の新規入国が停止されていましたが、この3月に解除されました。自国で1年間の待機をよぎなくされ、ようやくこの3月に入国することができた新疆ウイグル出身の留学生アキダさんにインタビューしました。

京都YMCA国際福祉専門学校

日本語科留学生

艾克旦・吾买尔江（アキダ ウマルジャン）さん

留学前は何をしていましたか。

私は2020年に高校を卒業し、医科大学で勉強をしていました。留学を決めてからは、大学を退学して留学準備を始めました。

なぜ留学をしようと思いましたか。

子どものころ家族と一緒に日本に暮らしていましたが、突然日本から中国へ帰ることになったので、日本にやり残したことがあると言う気持ちがありました。

また、両親の希望もあり医科大学に進学をしましたが、医学はあまり自分には向いていませんでした。それよりは、日本でもう一度勉強したいと言う気持ちが強くあり、留学を決めました。

留学できるようになるまではどうしていましたか。

2021年4月に入学の予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で予定が変わりました。心はずでに日本に行っていましたので、とてもショックでした。コロナのことも不安でしたが、予定が変わってしまったことへの不安も大きかったです。外出もしたくなかったし、何も手につかずイライ



ラしました。

そんなとき、10月にオンライン授業がスタートしました。そこで、クラスメートと会い、入国を待っているのは私だけではないと実感しました。そこからは、気分が変わって気持ちも明るくなりました。

日本での生活や学校生活はどうか。

日本に入国できたときは、「久しぶり！」と懐かしい気持ちでした。YMCAの授業は文法だけでなく、意見交換を通して自分のことや他の人の考えがわかってきます。それがとてもおもしろいです。自転車で通学するだけでも日本人の生活など新しい発見があり、日本での生活を楽しんでいます。

卒業後にやりたいことや、将来の目標はなんですか。

大学に進学して様々な国の人と出会い、その人たちの文化・生活を学びたい、と言うのが今の目標です。そして、いつか他の国へも留学をしてみたいです。

6/4 SDGs理解セミナー 「ケニアで暮らす子どもとマサイのくらしから学ぶ」

今年度、SDGsの理解と啓発を目的としてシリーズ開催を計画しているSDGs理解セミナー。その第1弾を6月4日に開催し、54名

(YMCA会員と一般で20名、YMCAリーダー34名)が参加しました。

今回は「ケニアで暮らす子どもとマサイのくらしから学ぶ」と題し、早川千晶さん(ケニア在住34年、ナイロビ最大のスラム街で私設小学校を運営)、大西匡哉さん(ケニアのドゥルマ民族の伝統音楽センターの14人の継承者の一人、Sengenya Japan代表)を講師として迎え「スラムで暮らす子どもたちの学校」「自然と野生

動物との共存をしているマサイの暮らし」「ドゥルマ民族」のことについてお話いただきました。

この企画は、今年の2月に自身の研究の一環でケニアに渡航した野外リーダーの上島聡子さんが現地でも早川さんと出会い、早川さんの活動を目の当たりにし、この経験と学びをリーダー仲間や多くの人に伝えていきたいと考えたことから実現に至りました。こうした一人のユースの熱い思いを形にしてゆくことも大切にしていきながら、SDGsセミナーを今後も開催していければと思います。

6/18 6/19 ホタルの夕べ @リトリートセンター

6月18日と19日の2日に分けて開催し、それぞれ43名、24名が参加しました。梅雨のさなかでしたが幸い2日ともよいお天気で、参加者の皆さんは、夕食のBBQと食後のホタル観察を堪能されていました。

ホタルの夕べは、当初18日のみ開催予定でした。ところが、申込受付初日、受付開始からわずか40分で満席となり、その後キャンセル待ちが定員を上回る40数名に達しました。予想を大きく超える盛況ぶりを受け、急ぎ翌19日にも実施することになり、キャンセル待ちの内、約半数のご家族が19日の回に移っていただきました。18

日の回でキャンセルが1組も出なかったため、キャンセル待ちの内、残る約半数の皆さんにはご参加いただけず、申し訳なく思いました。

5~6月はコロナ禍が明けた感覚があり、申込数の多さはその反映だったようです。コロナ禍でも例年6月は状況は落ち着いており、今後もウィズコロナでの開催になるかと思いますが、来年は企画段階から2日開催で考えたいと思います。



6/19

いのちを守る水泳講習会 @スイミングスクール

毎年全国のYMCAと協力して行っているウォーターセーフティーキャンペーンの一環で、「いのちを守る水泳講習会」を6月19日に開催しました。

この講習会は、水の事故が多くなる夏を迎える前に、いのちの尊さを知り、そのいのちを守るための知識や技術を多くの子どもたちや保護者に知っていただくことが目的です。

全員が服を着たままプールに入る着衣泳では、実際に水の事故に遭ってしまったときに近い状態を疑似体験できるため、子どもだけでなく保護者にも多くの学びがある催しとなりました。

初めは服を着てプールに入れることを喜

んでいた子どもたちも、水の事故が多発する場所や原因についてのレクチャーや、着衣泳で動きの自由が利かないことをなどの危険を体験するにつれて、次第に真剣な表情に変化する様子が見て取れました。

その後は、水の事故に遭遇した際に、呼吸を確保するための浮き方や岸までの移動方法など、泳ぎの技能レベルに合わせたグループに分かれて、それぞれに合わせて技術を学びました。他にも、身の回りで浮き具の代わりになるものの例としてペットボトルを紹介し、溺れている人を見つけた時に他者を助ける方法も学びました。

普段はYMCAのスイミングスクールに通っていない子どもたちや保護者の参加もあ



り、「子どもと有意義な時間が過ごせました。」や「勉強になりました。保護者向けの講習もあればいいですね。」といった声が聞かれました。

6/24

2022年度会員協議会 @会員活動部

2022年度会員協議会を6月24日にマナホールにて開催し、3年ぶりのリアル開催となりました。新型コロナウイルスの拡大防止のため参加者を制限して開催しました。

京都部の各クラブ会長をはじめ代理の方々にもお越しいただき、約40名が集まりました。活動委員長の高田敏尚さんの挨拶で始まり、加藤総主事から2021年度の事業報告並びに決算報告をした後、YMCAが現在取り組んでいる4つのプロジェクトについて、それぞれ担当スタッフからの報告がありました。

舞鶴YMCAの専門学校と府北部地域の産学共同にて進行している新しい人材育成のプ

ロジェクトについて阿部校長代理より、サバエキャンプ場後の京都YMCAの新たなキャンプの取り組みについて中村事業部長より、子どもの貧困問題に京都YMCAが今年から取り組む「夏の思い出を等しく子どもたちにキャンペーンについて」加藤総主事より報告並びに説明があり、最後に同盟が行っているウクライナ緊急支援の取り組みについて国際協力担当の遠藤より報告がありました。

続いて、ワイズメンズクラブの各クラブの1年間の京都YMCAへの支援に対して感謝状の贈呈並びにこの1年間の多額の寄付や寄贈に対する感謝の心が持たれました。



毎年行われているユースボランティアリーダーの認証が行われた後、認証を受けたアウトドアクラブの2人のリーダーから日頃の活動についての報告があり、日ごろのリーダー活動の楽しさや苦労などを知る機会となりました。

6/26
7/3

夏期準備ワーク @リトリートセンター、旧神崎小学校

サマープログラムを迎えるにあたり、ワイズメンズクラブ京都部の皆さんの奉仕により、夏期準備ワークを2週に渡って行いました。

6月26日はリトリートセンターにて、京都部の7つのワイズメンズクラブメンバー総勢90名が集まりました。前の週は雨模様で、当日の天気は心配されましたが、ワークにはうってつけの薄曇りの中での作業となりました。

それぞれ割り振りされた場所で、草刈りや施設の清掃を行い、慣れた手つきで皆さん作業を進めてくださいました。お昼には京都キャピタルワイズメンズクラブのご奉仕でカレーが振る舞われました。コロナ禍で、カレーの提供は2年間中止していました。2年ぶりのカレーは格別でした。密にならないよう、クラブごとに交代で食堂を使い、おいしくいただきました。すっかり夏

の準備の整ったリトリートセンターで今年も多く子どもたちが楽しい夏を過ごすことでしょう。

翌週の7月3日は、京都府北部の由良川河口右岸・舞鶴市神崎にて、旧神崎小学校での夏期準備ワークが7クラブ62名の参加を得て行われました。

昨年9月に閉所したサバエ教育キャンプ場に代わり、今年から舞鶴の旧神崎小学校跡が新たなキャンプ地の一つとなります。そこで子どもたちが旧小学校跡の校舎で快適に過ごすことができるよう、ワイズメンズクラブのご奉仕で小学校の清掃ワークをしていただきました。

前日からの宿泊組を含め、京都市内から集まったワイズメンズクラブの皆さんと、地元舞鶴で活動する北京都フロンティアワイズメンズクラブのメンバーが、それぞれ箒や雑巾、モップ、ブラシなどを手に持



ち、玄関や使用教室や廊下、窓ガラスの清掃と担当箇所の掃除に取り組みました。

途中から外は雨模様となりましたが、屋内のため、作業は順調に進みました。宿泊場所となる教室には、サバエから運んだベッドが備え付けられ、窓には簡易の網戸を設置し、子どもたちを迎える準備が整えられました。

作業後は、地元の方もビックリすると思うくらい、作業前と打って変わってきれいに校舎が生まれ変わっていました。



神さまへの感謝の気持ちを込めて、いつも私たちがお散歩に出かける道を守ってくださるご近所の方や、お掃除の方々にお花を届けてきました。

聖書の一節には、子どもが小さな花を踏みそうになった時、それをみたイエスが子どもたちに伝えた言葉が記されています。「この小さな花にも神さまが命を与え、小さい虫たちが生きるために

蜜を吸いにくる。」

このようにいろいろな花があって、それぞれに神さまから命を与えられ、大事にされているように、子どもたちも一人ひとり違って神さまからとても大事にされています。だからみんなも同じように隣りの人を大事にしてほしいです。



保育園 たねさんの部屋で 青虫から蝶々になったよ

おさなごはその特権でもある無限に供給される昆虫や草花の命をもてあそびつつも、それ



らの特性のもとにうわべだけではない「いのち」の真意を学びます。おさなご頃に奪った命の数だけ、ヒトは大人になって「いのち」を愛おしむことができる…そんなそんな気がするのです。
(「昆虫からいのちを学ぶ」より引用)

保育園 新しい「かお」がやってきた！

YMCA高倉おさなご園に看板が届きました。京都パレスワイズメンズクラブさんからの寄贈です。形や重さ、色、デザインなど試行錯誤を重ねて下さり、とてもステキに出来上がりました。本館の保護者の方々から「あーここなのね、看板が出ているからよくわかるわ」とおっしゃってくださっています。本当にありがとうございました。



アフタースクール ふっかふかの床で楽しく安全に遊べます！

京都プリンスワイズメンズクラブさんが、アフタースクールの子どものために、床のカーペットを張り替えてくださいました。翌週に来た子どもたちはすぐに床の感触に気づき、「リーダー！床がふかふかで良いね！床にクッション敷いたの？」「ふかふかで気持ちいい！僕たち私たちの為にありがとうございます！」と喜びの声がたくさんありました。私たち指導者も、子どもたちが安全に過ごせる環境にしてくださったこと大変感謝しています。



在住外国人の方のための

オンライン介護福祉士国家試験対策講座

介護福祉士養成校のノウハウ+日本語教育のノウハウを生かし、各分野別学習はもちろん、筆記試験までのスケジュールリングもサポートします。同じ目標を持った仲間とともに学びましょう！

対象：2023年1月に国家試験を受験予定の在住外国人の方

定員：先着40名

受講期間：2022年9月～2023年1月

受講料：12,000円（税込）

本校卒業生の方は8,000円（税込）

※使用教材は別途ご案内いたします。

各自ご用意ください。



お申し込みは
こちらから

お問い合わせ先

国際福祉専門学校 ☎ 075-255-3287 ✉ ymcollege@kyotoymca.org

みんなで好きな素材を選んで手作り楽しもう♪

8/18 サポートプログラムPolite「夏の手作りアクセサリ」

「Polite」とは、「思いやり」「礼儀正しい」「わかまえる」という意味です。「こんなときどうする？」を解決したり、「状況に応じた会話力」「立ち居振る舞い」「暗黙のマナー」等を楽しみながら知っていきます。今回はアクセサリ作りです。楽しい作業に没頭しながら女の子同士で仲よく交流するためのスキルを磨きましょう。



詳細はこちら

お問い合わせ先

サポートプログラム事務局 ☎ 075-255-4709 ✉ support@kyotoymca.org

9/10 リトリートセンター川遊び&納涼BBQ

リトリートセンターで暑さが残る午後は川遊びに興じ、夕涼みの頃合いにバーベキューに舌鼓を打ちませんか。締めはボンファイヤー（短く楽しいファイヤー）にマシュマロ焼き！基本的感染症対策をとり、ご家族ごとに分かれ飲食していただきます。



お問い合わせ先

リトリートセンター事務局 ✉ retreat@kyotoymca.org

8/1[月]13時から
申込受付開始

連載 第5回「愛されて共に生きる」

共に生きる

閨谷 欣也 さん
京都聖書教会 牧師

聖書の教えから現代社会を生きるヒントを。

この連載は毎月違う牧師が寄稿する「リレー形式」でお届けしていきます。

イザヤ書43章4節 わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。

先日、92歳の父が召天しました。かつて私が「牧師になる為に仕事を辞める」と報告すると、「世間の笑い者だ」と言った父でした。

そんな父は10年前、突然「教会に行っていていいか」と言い、その後毎週礼拝に出席。やがて母も。そして礼拝後には神の家族の食卓で満面の笑顔。

1年程すると父は私に「もうはっきりさせたい。洗礼を受けさせてくれ。」と。父が話した2つの理由、1つは寂しかったと。父は10代の頃、日本は戦時下で身体に障がいのある父は、身体検査を受ければ「役立たず、飯を食うな」と言われ馬鹿にされ、人との関わりに臆病でした。そんな父は子どもの関わりにも不器用で、口癖は「馬鹿にしているのか」でした。姉と私にとっては歪みのある親子関係でした。父は悪い親だったと自らを責め「バチが当たる、地獄だ、死ぬのが怖い」と。これがもう1つの理由。しかし、赦されないと考えていた自分が赦され、しかも教会の愛の交わりに喜びを覚えたのです。

9年前のクリスマスに母と2人で洗礼を受け、愛されて共に生きることを喜べた父でした。あなたも神に愛されています。愛されて共に愛に生きようではありませんか。